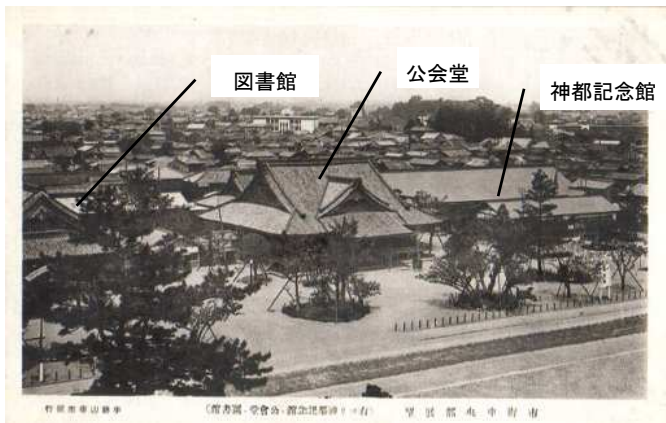


まえがき



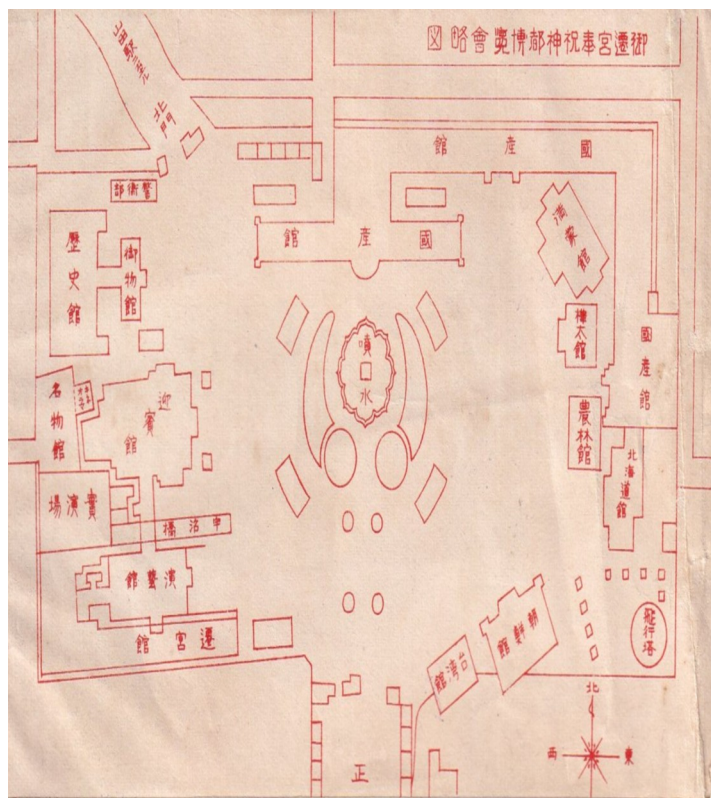
伊勢の古い絵葉書や資料を収集し発表されている「いにしへの伊勢」の山田修司氏から上の写真が提供された。写真下欄には、「市街中央部展望 右より神都記念館・公会堂・図書館 宇治山田市発行」との記載がある。場所は、現在の近鉄 宇治山田駅前の伊勢市観光文化会館（シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢）の位置である。

以前より同じ構図の写真はあったので、これら建物の存在は知っていたが、随分長く、中央の建物を「神都図書館」と誤解していたし、これらは昭和5年3～5月に開催された御遷宮奉祝神都博覧会のパビリオンとして建築されたものばかり思っていたが、それも曲解していたことが分かった。そこで、それぞれの建物の建築経緯を調査した結果、自分が知らない事実が発見できたので、主に、神都図書館の建物であった「御師橋村大夫邸」の流転について述べたいと思う。

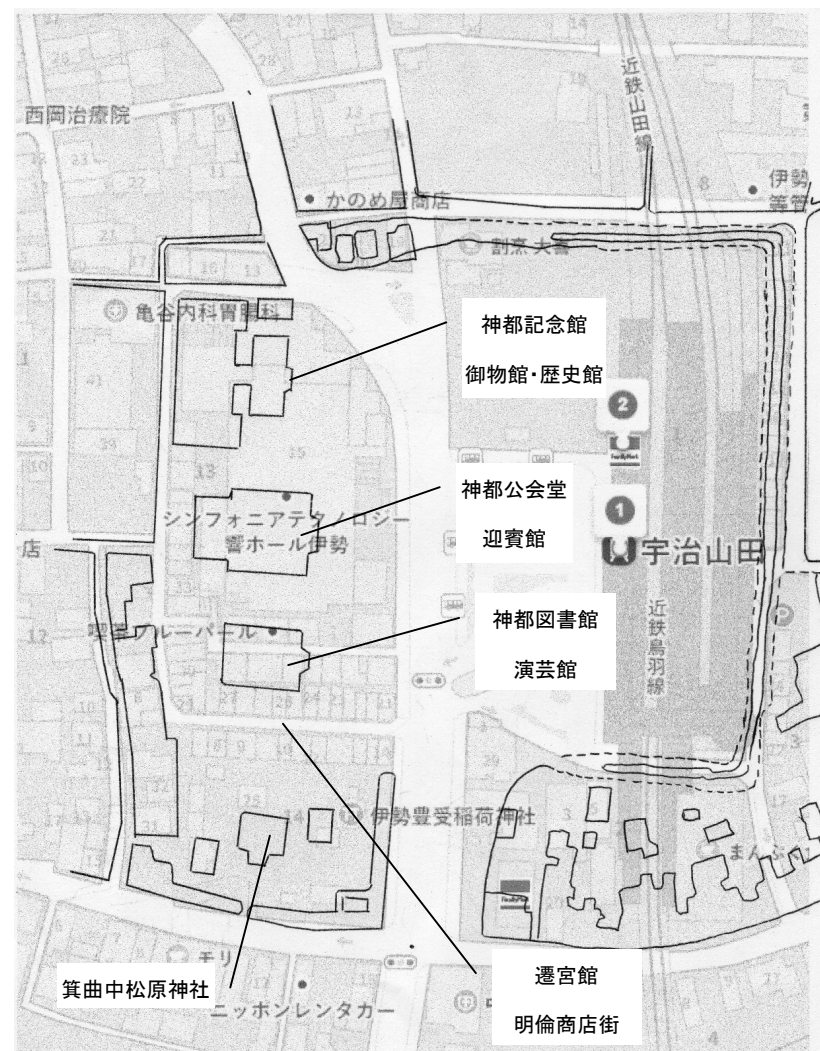
2021年8月 秋 田 耕 司

「市街中央部展望」絵葉書

まえがきの写真の場所を現在のYahoo地図に昭和5年作成「宇治山田近傍」地図を重ね書きしてみると、神都記念館と公会堂は現在の観光文化会館の場所と重なり、図書館は現在の明倫商店街に隣接していた事が分かる。また、対面の空き地は現在の近鉄宇治山田駅に合致している。この場所で昭和5年3～5月「御遷宮奉祝神都博覧会」が開催された。そこで建設された建物（パビリオン）の配置図は後載している通りで、神都記念館は「御物館と歴史館」、神都公会堂は「迎賓館」、神都図書館は「演芸館」としてそのまま活用されたことが分かる。まずは、神都記念館、神都公会堂、神都図書館の3棟が建設された経緯から説明すると、1927昭和2年12月に大蔵省所管の岩淵町の国有地にあった旧刑務所跡の敷地（現在の観光文化会館の場所）5、529坪を、立木とともに5万5千余円の特売で購入した。昭和3年4月8日に「神都公会堂」、「神都図書館」が竣工した（宇治山田市史付録P.6）。さらに、昭和3年11月に岡本町より公会堂前を経て吹上町に達する直道の拡張並び新設で竣工した（同史付録P.8）。大正天皇崩御後の諒闇のあける昭和3年秋に昭和天皇即位式が京都で挙行されることになり、引き続いて即位式を終えた新天皇が神宮を親謁された。当時即位に伴う「連の儀式を「御大礼」とも「御大典」とも称した。昭和4年は第58回神宮式年遷宮の年にあたるので、福地（市長）市政下の宇治山田市は2年連続して皇室および神宮関連行事を迎えることになった、と資料にみる」ことができる。



(上) 神都博覧会場施設図 (下) 中央 神都公会堂 左隣 神都図書館 (御物館がない) 後から建設



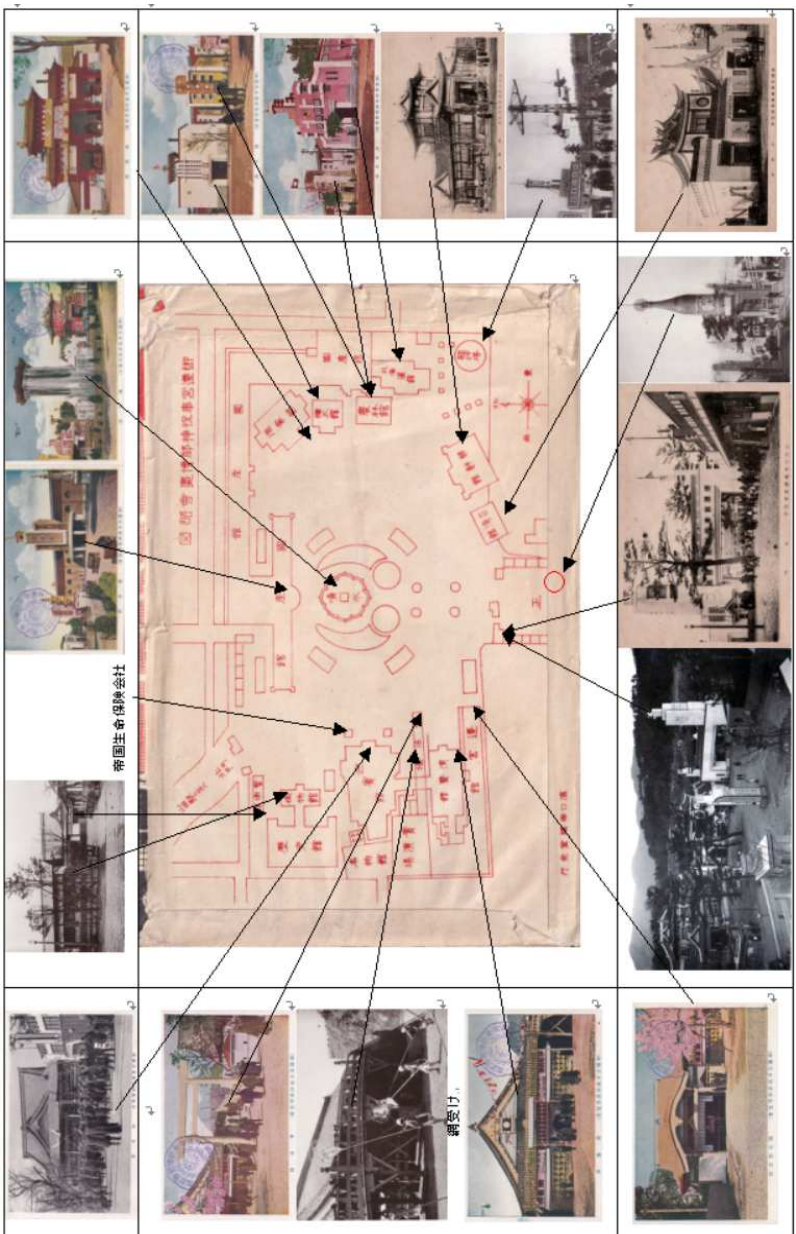
昭和5年3月御遷宮奉祝神都博覧会開催

同博覧会の会場について、旧(度会)郡役所跡地とそれに隣接する神都公会堂敷地を会場地とすることになった。旧郡役所跡地の市への払下げはかねてより進行していたが、参宮急行株式会社(現、近鉄)に売却されることとなった。その頃、宇治山田駅用地が未整備であつたので、福地市長が参宮急行と交渉し、無償借入れに成功したという。

会場の展示館として、神都公会堂の北隣りに建設された「大礼(神都)記念館」を「御物館」と「歴史館」、公会堂を「迎賓館」、図書館を「演芸館」とした。それらの前面の旧郡役所跡地(現宇治山田駅用地)には、「国産館」を主要会場とし、他に「台湾館」、「北海道館」、「朝鮮館」、「樺太館」、「満蒙参考館」が開設され、会場内には飛行塔、噴水塔、正門広告塔(白鹿)、大阪毎日館、大阪朝日館、三重県タオル館なども設けられ、寄付金募集と遷宮記念館、名物館、名勝館、演芸館(余興館)の開設をその事業とした。

この経緯から、まえがきの写真は昭和5年3月御遷宮奉祝神都博覧会後に撮影されたものであると推測できる。博覧会配置図の下の「神都公会堂と神都図書館」の写真には、それらに隣接した建物がないので、「御物館」と「歴史館」は公会堂と図書館の後に建設されていたことが分かる。

博覧会終了後、その跡地に宇治山田駅が昭和6年、新築され、現在に至っている。
博覧会会場施設は次頁の如くである。



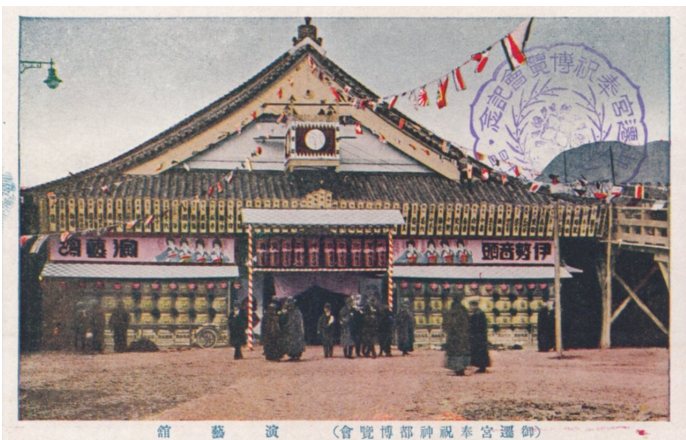
神都図書館

「神都公会堂」と「神都記念館」については後述するが、まずは神都図書館となった建物が常盤町にあった山田葉煙草専売所の建物を移築したものであったというのでその経緯について述べる。

名古屋地方専売局宇治山田出張所の推移(宇治山田市史 P. 367より)によると、明治29年3月、明治政府により葉煙草専売法が公布され、明治31年1月、代々、常磐町字河崎世古に居を構えていた旧御師橋村宰記(橋村肥前大夫)の土地と建坪138坪の建物を買収して「山田葉煙草専売所」を開庁し、伊勢国の大部分と伊賀・志摩両国における葉煙草の検査・収納・売渡等を管掌する事となった。買収した建坪138坪の建物は事務に不便であったため改築を行ったという。その建物は伊勢度会人物誌P. 214 六〇二、橋村寿昌院によると、橋村正景の妻、寿昌院が1644寛永20年に新宅を竣工させ、寛文、宝永及び明和の大火にも焼けず、その一部は寛永年間の建物が残り、当時(明治31年頃)では御師邸として最古の木造建築であった、とある。

それから30年後の昭和3年1月、名古屋地方専売局宇治山田出張所の社屋が新築され竣工(宇治山田市史付録P. 2)されるに伴い、元の社屋(改築された橋村邸)はその建築材料も良かったため、宇治山田市が買収して(神都)図書館にすることになり、橋村邸が流転する初めとなった。

御遷宮奉祝神都博覧会誌によると、神都図書館はその開催中、「演芸館」として利用され、山田検番芸妓の総出演で開館当日より5月7日まで華々しく開演し、大好評を博した。



橋村宰記は誰？

それでは、明治31年に専売局に屋敷を売却したという旧御師「橋村宰記」とはいかなる人物であったか？

明治31年に一番近い資料としては、明治4年に廃止された御師の收支調書として明治12年に作成された「外宮御師取調帳(総称)」（以下、取調帳）があるけれど、これらは伝統ある「伊勢御師」の最後の姿を表している。この中の橋村姓を列挙し、位階順に並べると次頁表のようになる。

橋村家は由緒ある度会系譜の異姓家(地下権任家)として代々、外宮の権禰宜を務める重要な家系であったことが推測できるが、江戸初期から時代が下つて橋村家は多くの分家に別れ、その殆どが外宮で権禰宜を務める要職にあつて一族として権勢を誇つたが、その多くが河崎世古(常盤町)周辺に住んだものと思われる。

この表から、肥前大夫を名乗っているのが「正克」であるので、彼が専売局に自邸を譲り渡したと言われる橋村宰記だと思われるが？

橋村一族の系図については、神宮司庁 音羽氏から「考訂度会系譜」に記載されていることを教えていただきましたので、まずは系譜を紐解いてみる。

通称	位階	元通称・祓名	職名	住所	支配札国(伊勢除く)
正環	正二位 正環 士族 外宮権禰宜家	筋間橋大夫改め 橋村大藏大夫	権禰宜	二俣町135番地	伊予国
正順	正四位 正立 士族 正立男	橋村八郎大夫・橋村大夫 橋村右近大夫・岩間二頭 大夫 鈴木嘉大夫	外宮権禰宜	常磐町50番地	遠江、駿河、 伊豆、播磨
正克	正四位 正克・肥前大 夫 外宮権禰宜家	橋村肥前大夫・ 高向二頭大夫	権禰宜	常磐町50番地 (絶家)正順引請	山城、大和、河内、 摂津、武蔵、肥前、 志岐、筑後
淳風	正四位 淳風・淳正 士族 権禰宜家	橋村市大夫	職御塩焼物忌(外) 宮権禰宜	常磐町58番地	丹波、筑前、三河、 讃岐、尾張
正尋	從四位 正道・大進 士族 外宮権禰宜家	橋村吉大夫・ 橋村内蔵大夫	権禰宜兼 〇〇副物忌父	常磐町131番 宇治久永同居	阿波、淡路
正貫	正五位 正貫・主計 士族 外宮権禰宜家	橋村主計	権禰宜兼 守見副物忌父	常磐町35番地	筑後、筑前
正恒	正五位下 正恒・刑部 士族 外宮権禰宜家	宗家橋村織部大夫 より橋村久大夫	権禰宜	常磐町126番地	阿波、土佐、讃岐、 伊予、尾張
正敏 (さん)	從五位 正敏 平民 師職町年寄家	橋村帯刀大夫・橋橋鑑 谷大夫・榎倉修理之進	外宮権禰宜・ 町年寄	八日市場町49番地 福島末万同居	伊賀、三河、 駿河、東京
親正	從五位 親正・治郎 士族 外宮権禰宜家	橋村治郎	権禰宜	常磐町50番地 正順引請	無壇

考訂 度会系図 拾貳 四門 橋村氏

橋村氏は度会四門、13家系もある。直系のみを記載する。合わせて「伊勢度会人物誌」で記載されている(宇治山田市史第12人物編の記述とほぼ同じ)橋村姓の系譜を追記する。大半が外宮権禰宜を務め、正四位上く従五位下になっている。

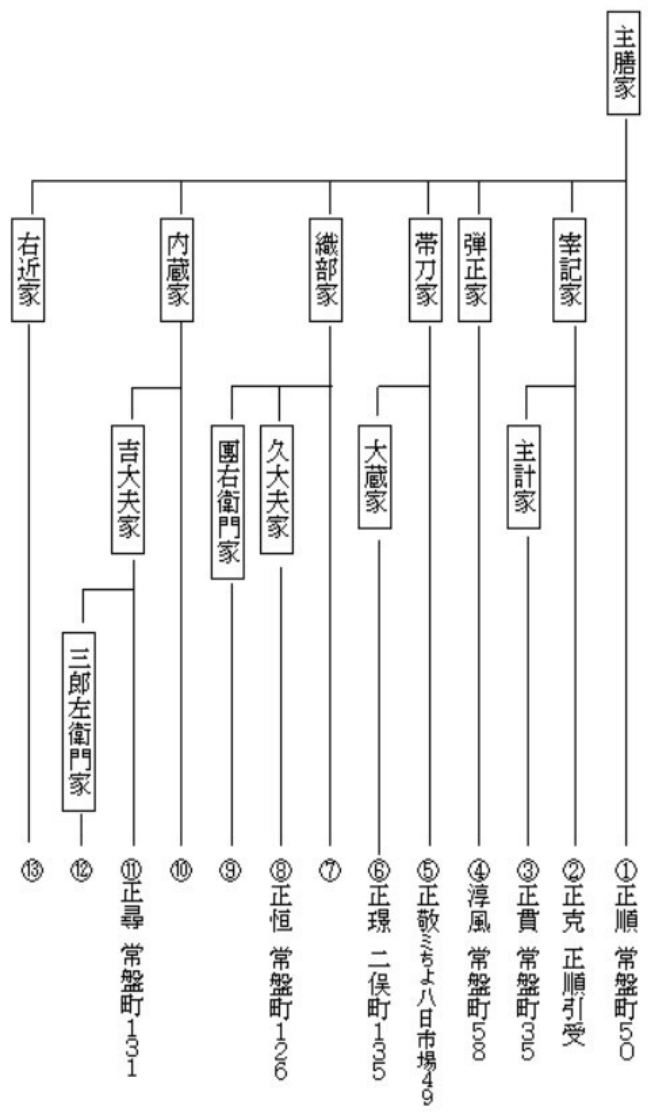
橋村肥前大夫について、平成24年版伊勢市史中世編を調べてみると、

P. 417 山田三方系伊勢御師の変遷(寛永年間まで)によると、「山田三方系伊勢御師」同姓者初見年

「橋村八郎大夫」1479文明11年とあることから室町時代以前から橋村家は御師として活動していたものと思われる。

P. 676 「上部氏について」の項には、自治組織として著名な山田三方は、三方年寄と呼ばれる人々によって、自治の運営が行われていた(第三章第三節参照)。三方年寄の内訳をみると、度会氏の出身者と地下人の出身者に分けることができ、このうち度会氏の出身者は、上部・橋村・春木・福嶋・福井の五氏であった。度会氏の一族は大きく二つの系統に分派して、それぞれを二門氏人・四門氏人と称していたが、三方年寄の五氏は、春木・福井・福嶋が二門氏人で、上部・橋村が四門氏人であったので、橋村家は度会氏の異姓家であることが分かる。

橋村家系統図



○系譜 ●別称、号、別名 △生没年 ▲生地、住所、墓地 □略歴 内没年

①橋村主膳家系（本家）

①国正▽②清行▽③正吉▽④正世▽⑤正家▽⑥正高▽⑦正治▽⑧正康▽⑨正房▽⑩正修▽⑪正親
▽⑫恵正▽⑬正恩▽⑭正主▽⑮正始▽⑯正代▽⑰正立▽（長男）⑱正克（宰記家系主水正並養子 44
歳没）Ⅱ（次弟）⑲正順

⑫恵正シゲマサ（正冬？）●熊之助、正冬、主膳、将曹、主税△寛文2～1721享保6▲上中之郷、同上、浦口天神丘

⑯正代○●主膳△～1790寛政2▲、上中之郷、浦口且過□外宮権禰宜、宣長門人、国学

⑰正立○正代養嗣、末熈次男●八郎大夫△～1889明治22▲、常盤、浦口天神丘Ⅱ屏風山

⑲正順○正立男●岩渕一頭大夫、鈴木嘉大夫・橋村大夫・橋村右近大夫・橋村八郎大夫（詳細不明）

②（主膳家流）橋村宰記家系

①正滋（Ⅱ②正兼）▽③正景 妻寿昌院が宰記邸を建設▽④正利▽⑤正甫▽⑥正長▽⑦峯正▽⑧正因▽

⑨正河▽⑩正並▽⑪正克

①正滋○正康三男、宰記家の祖●才右衛門1606慶長11▲上中之郷、同上、屏風山□外宮権禰宜從五位

②正兼○正康男●右近、彦右衛門△永禄4～1618元和4▲上中之郷、同上、屏風山

③正景○正滋養嗣上部左近男●宰記、肥前大夫□妻寿昌院△～1662寛文2□寿昌院 上中之郷橋村世古に閑居していたが、

寛永19年同町河崎世古の50間四方の敷地に新宅（後の神都図書館）を建設した。

⑤正甫スケ○正利の養嗣主膳正修四男●松千代、右兵衛、主水、萬右衛門、内記△寛永7～1692元禄5▲上中之郷、浦之橋、

⑥正長○正甫三男●正矩、主水、図書△寛文元～1712正徳2▲上中之郷、同上、□外宮権禰宜、從四位上 蹴鞠

⑧正因○峯正養嗣、上部貞因八男●六太郎、頼母△正徳6～1740元文5▲岡本、上中之郷浦之橋、屏風山

⑨正河○正因養嗣、中山正武四男●乙鶴、文字之助・宰記・萬右衛門・主水・権之新△寛保元～1812文化9

⑩正並○正河養嗣、中山正樹次男●正真・兵庫・主水・宰記・喜聞多△天明3～1852嘉永5▲上中之郷、同上、屏風山

⑪正克○正立男●寿丸・宰記、礼郷、春圃△1831天保2～1875明治8享年44歳▲上中之郷、同上、屏風山

③（宰記家流）橋村主計家系

①正相▽②正章▽③正身▽④正令▽⑤正璟 安政4年大藏家系橋村正衛繼嗣▽▽⑥（正貫）

③正身ノブ○正章男●彌太郎・靱負・主計・左兵衛、整郷、沼樹園△正徳4～1771明和8▲上中之郷、同上、屏風山

④正令○正身長男宇治久老兄●痴亭・彌太郎・左兵衛・監物・主計・今祐太郎、行美△寛保3～1800寛政12▲同右

⑥正貫○正令養嗣、中山正貞男、●△天保11～1908明治41▲、屏風山

④(主膳家流)橋村彈正家系

①正慶▽②正勝▽③正箇▽④正能▽⑤正益▽⑥正純▽⑦正衡▽⑧正兌▽⑨淳風

⑦正衡○正純養嗣、檜垣貞剛男●貞義・源之丞・隼人△宝暦5～1793寛政5▲西川原、上中之郷、屏風山□外宮権禰宜、和歌

⑧正兌トキ(正淳)○正衡養嗣檜垣常有男●亀丸・正風・正淳・隼人・彈正、鶉居△天明5～1837天保8▲西河原上中郷屏風山

⑨淳キヨ風○正兌男●天五郎・彈正、百船舎・ことそぎの舎△天保5～1901明治34▲上中之郷、同上、屏風山

⑤(主膳家流)橋村帶刀家系

正頼▽正軒▽正良▽正朝▽正城▽正直▽正房▽正文▽正考▽正澄(嘉永2年没)▽(正敬ミちよ)

⑥(帶刀家流)橋村大藏家系(筋向橋氏)

①正峯▽②正方▽③正彬▽④正等▽⑤正甫▽⑥正基▽⑦正衛▽⑧正環

⑤正甫ナミ○正等養嗣、村山末文六男●末矩・正矩・門太郎・主馬・新藏・木工・大藏△宝暦12～1797寛政9▲八日市場、浦口

一俣天神丘□権禰宜、從四位、和歌

⑦正衛○●大藏、仁郷・桃園・二水△文政10～安政3▲、上中之郷、浦口切通□権禰宜、松田適翁門人、詩書

⑧正環ケイ○正衛養嗣、中山正廣次男●景玉、石瓢子、橘陰△弘化2～大正8▲一志郡松崎村、一志久保、浦口天神丘

⑦(主膳家流)橋村織部家系

①正方▽②正城▽③正堯▽④正珍▽⑤正晨▽⑥賢正▽⑦正友▽⑧正勝▽⑨正名▽⑩正速

▽⑪寧国(異姓谷氏繼嗣)

④正珍ツラ○正堯男●織部、勘左衛門△慶長12～1657明暦3▲上中之郷、同上、

⑧(織部家流)橋村久大夫家系

①正秀▽②正由▽③正乗▽④正宅▽⑤正次▽⑥正明▽⑦正言▽⑧正壽▽⑧正兄▽⑩正邦

▽⑪正位▽⑫(正恒)

⑧正兄○正言男●新之丞左近久大夫親正大貳△宝暦9～1817文化14▲上中之郷大間廣浦口切通□外宮権禰宜正四位下

⑨(織部家流)橋村團右衛門家系

正繁▽正命▽正影▽正路▽正尚(荒木田姓高田氏養子)

⑩(主膳家流)橋村内藏家系

①定廣▽②正晨▽③正誠▽④正依▽⑤正竹▽⑥正弘▽⑦正紀▽⑧正矩▽⑨正郷(荒木田姓坂因幡氏繼嗣)

①定廣○清正三男、権大夫家の祖●内藏允、似庵、竹田宗柏△～1552天文20▲上中之郷、同上、□医師

⑤ 正竹 ○吉沢末規五男 ●未住、内蔵助、伊右衛門 △寛永16〜正徳4 ▲八日市場

⑥ 正弘 ○正竹男 ●内蔵、権大夫 △延宝3 元文3 ▲、常磐、

⑪ (内蔵家流) 橋村吉大夫家系

正良▽正信▽正武▽正房▽正在▽正上▽正柯▽正道▽正尋||正恒

⑫ (吉大夫家流) 橋村三郎左衛門家系

正信▽重縁▽正章(寛政7年没)

⑬ (主膳家流) 橋村右近家系

正兼▽正満▽正伸▽示正▽正通(文化8年没)

(家系不明) 親正(柳塘) ○出口常栄男、正路家再興 ●延利・親正、廣郷 △嘉永3〜1898 明治31 ▲吹上、同上、一簣坊

これら家系図から、「橋村宰記は誰？」の結論が導きできる。

本家である①主膳家の惣領「正克」は、橋村邸を建設した正景の妻、寿昌院の家系である分家「宰記」肥前大夫家に養嗣に入って継承した(どうして惣領が養嗣になるのか？疑問が残るが?)。一方、本家主膳家橋村八郎大夫家は次弟「正順」が継承した。しかし、「正克」は明治8年44歳で早世したため、取調帳提出の頃(明治12年)には宰記家は絶家となっていた。そのため、本家主膳家の「正順」がそれを引き請けた、ということだろう。従って、宰記邸を明治31年に専売局に売却した「橋村宰記」は「正順」ではないかと推測できる。

その他、橋村家関連の記事を拾ってみる。

平成24年版伊勢市史近世編P. 137には、浦口町の来田新左衛門家、上中之郷町の橋村宰記家、八日市場町の福嶋御塩焼家の三家について「参宮人帳」(参宮客の宿泊名簿)の研究が行われているが、その中で、橋村宰記家は1582天正10年から1623元和9年までの41年間で、九州地方から7、889人(肥前国7、092人・筑後国797人)の檀家が同家に宿泊している(久田松和則「伊勢御師と旦那」)。同家の御祓銘が橋村肥前大夫であることが象徴するように、同家は肥前国をメインに師檀関係を形成していた(鈴木敦子「戦国期の流通と地域社会」)。

さらにP. 129表7「1777安永6年時点の5万軒以上の檀家を有する山田御師」覧の中には、

(師職名) 橋村主水(宰記家「正長」か?) (家格) 年寄(祓名) 橋村肥前大夫(住所) 上中之郷

(師職名) 橋村内膳(主膳家だろう) (家格) 三方(祓名) 橋村八郎大夫・小田大夫・橋村大夫(住所) 上中之郷

が記録されている。これらのことから、橋村家は上中之郷に広く本家と多くの分家があったように考えられるが、それぞれ位置を知る手掛かりは見つけられてはいない。

古地図から

橋村本家と思われる場所を古地図から調べてみると次のような記載を見出すことができる。

○1643寛永20年 山田惣絵図 伊勢の地図では最古と知られている同絵図には橋村2家が記載されている

「橋村善左門」上中之郷町(常盤町)・・・現、梅香寺奥 法住院と等観寺の間辺りか？

「善左門」の「善」は主家 「主膳」の「膳」に通じるかも知れないので本家ではないか？

「橋村才右衛門」上中之郷町(常盤町)・・・川崎(河崎とも)世古 旧専売公社の場所

「才右衛門」は家系図から、宰記家の祖と言われる正康三男 「正滋」であるので、江戸初期には既に、旧専売局の地に居を構えていた。従つて、専売局に譲渡した土地建物は分家宰記家邸であったことは明白である。宰記家は山田町年寄を勤め、外宮権禰宜兼職と解説がある。

○1797寛政9年 伊セ路見取絵図 第2巻下 小畑・山田・宇治

河崎世古の堤世古寄り(西側)に 「橋村織部」、その東側旧専売局の場所に 「橋村久大夫」の記載がある。

「久大夫」は橋村織部大夫こと橋村久大夫のことと思われる

○1834天保5年 山田町方之図

堤世古そばに 「橋村久右衛門」の記載があり。この 「久右衛門」も織部家系ではないか？

○1900明治33年 神都実測図

橋村邸の場所に 「葉煙草専売所」の記載あり。宰記邸が譲渡されたことが分かる。

○2005平成17年 伊勢市市街図

橋村邸の場所に 「日本タバコ産業」の記載あり。専売局が改称されたことが分かる。

これらのことから、河崎世古にあったその場所は古くから分家 「宰記家」邸であり、それがのちの専売局になったことは明白であるが、1797寛政9年伊セ路見取絵図には、河崎世古の堤世古寄り(西側)に 「橋村織部」、その東側に 「橋村久大夫」の記載があり、また1834天保5年山田町方之図では同じ場所には 「久右衛門」と記載がある。「久大夫」は橋村織部大夫こと橋村久大夫のことと思われるので、時代によつて宰記家に代わつて織部家邸となつていた可能性もある。本家 「主膳家」邸の場所は1643寛永20年 山田惣絵図の梅香寺奥 「橋村善左門」にあったか？その住所は常磐町50番地であったか？番地表示は明治19年に番屋敷表記からようやく改められているので、その前の明治12年作成の 「外宮御師取調帳」に記載された番地は番屋敷であると思われる、それを特定するのは難しい。(法務局で調べることはできるらしいが？)

これまで、旧専売公社のあった場所には橋村大夫邸があったことはよく知られていて、そのみが橋村大夫邸であり、本家邸であるかのように錯覚していたが、実際は、橋村家は多岐に分流し各所にあり、旧専売公社跡は分家の宰記家邸だったことを初めて認識できた。

位階について

取調帳には家格が明記されていないので明確ではないが、前述、1777安永6年時点の5万軒以上の檀家を有する山田御師「覧」には、次の記載がある。

〔師職名〕橋村主水〔分家宰記家〕「正長」？〔家格〕年寄〔祓名〕橋村肥前大夫〔住所〕上中之郷
〔師職名〕橋村内膳〔本家主膳家？〕〔家格〕三方〔祓名〕橋村八郎大夫・小田大夫・橋村大夫〔住所〕上中之郷
従つて、本家主膳家は三方家で、宰記家は〔町〕年寄家であつたので、位階に關して本家は誰よりも高いのではないかと考えるけれど、取調帳では、

本家主膳家 橋村八郎大夫こと 「正順」は正四位、

分家主膳家流宰記家 肥前大夫こと 「正克」も正四位、

分家主膳家流彈正家 橋村市大夫こと 「淳風」も正四位、

分々家帯刀家流大藏家 筋向橋大夫改め橋村大藏大夫こと 「正環」は最も高い正二位、

「正環」が最も高い正二位なのはなぜか？理由は分からない。

それ以外の「正尋」従四位、「正貫」正五位、「正恒」正五位下、「三ちよ」従五位、「親正」従五位、である。

余談にはなるけれど、橋村正環は号を 橋陰きういんとして、伊勢では篆刻の田器派の一員として知られる。

その略歴は「伊勢度会人物誌」によると、資性剛直不羈き、夙に松田雪柯の門に入つて漢籍を学び、外宮祠官として家職を襲いで居たが、明治17年職を辞して東京に出で諸名士に交わり、また行餘学舎を興して子弟を教授した。後再び郷里に歸りて神宮権禰宜に任じ従六位に叙せられ、神宮皇學館教授を兼ねた。

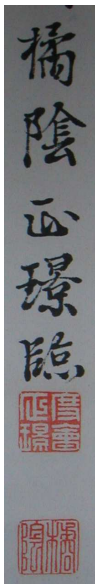
字名を景玉、別号は石瓢子。1845弘化2年 一志郡松崎村で中山正廣の次男として生まれ、橋村正衛の養嗣として一志久保に居住して、1919大正2年に没した。享年74歳。拙家に書軸が残されている。

蘭亭之記（2020年4月伊勢市に寄贈）

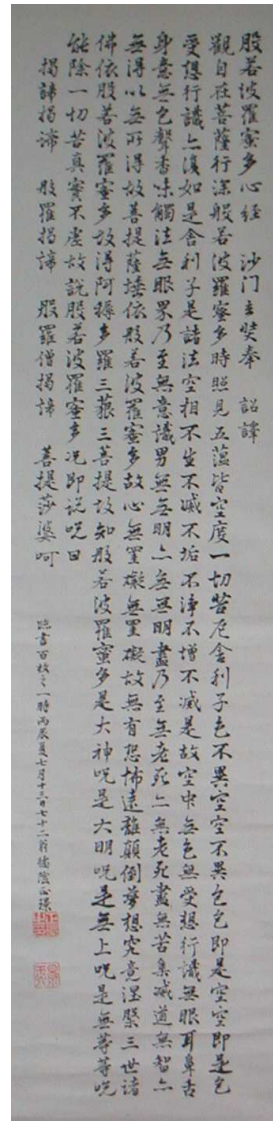
永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以為流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛信可樂也夫人之相與俯仰一世或取諸懷抱悟言一室之內或因寄所託放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不同當其欣於所遇暫得於己快然自足不知老之將至及其所之既倦情隨事遷感慨係之矣所欣所懷何之閒以萬陳止猶不能不以之興懷況脩短隨化終期於盡古人云死生亦大矣豈不痛哉每覽昔人興感之由若合一契未嘗不臨文嗟悼不能喻之於懷固知一死生為虛誕齊彭殤為妄作後之視今亦猶今之視昔悲夫故列敘時人錄其所述雖世殊事異所以興懷其致一也後之覽者亦將有感於斯文

大正丙辰七月十三日七十二叟橋陰正環臨

大正丙辰（大正五年）七月十三日七十二叟橋陰正環臨



般若心経 (2020年4月伊勢市に寄贈)



臨書百枚之一時丙辰(大正五年)夏七月十三日七十二翁橘陰正環



神都図書館に再利用された建物

図書館の大きさを推定してみると、縦24m、横19m程度の独立した一つの建物ではなかったかと考えられる。その建坪は138坪となり、明治31年1月に専売局が買収した橘村大夫の屋敷「138坪」という記述と一致する。次図は現在の地図に昭和5年作成の「宇治山田近傍」の宰記家邸を重ね書きしてみる。昭和5年発行で、解体されたと思われる昭和3年頃と時間的な差はあるが、地図の発行と作図には時間的な差があったと思われるので、移築前の建屋が描かれていても不思議はない。

そこには建物も描かれている。縦24m、横19m程度の独立した建物を当てはめると丸印が神都図書館となった建物だったかもしれない？



橋村大夫邸の平面図

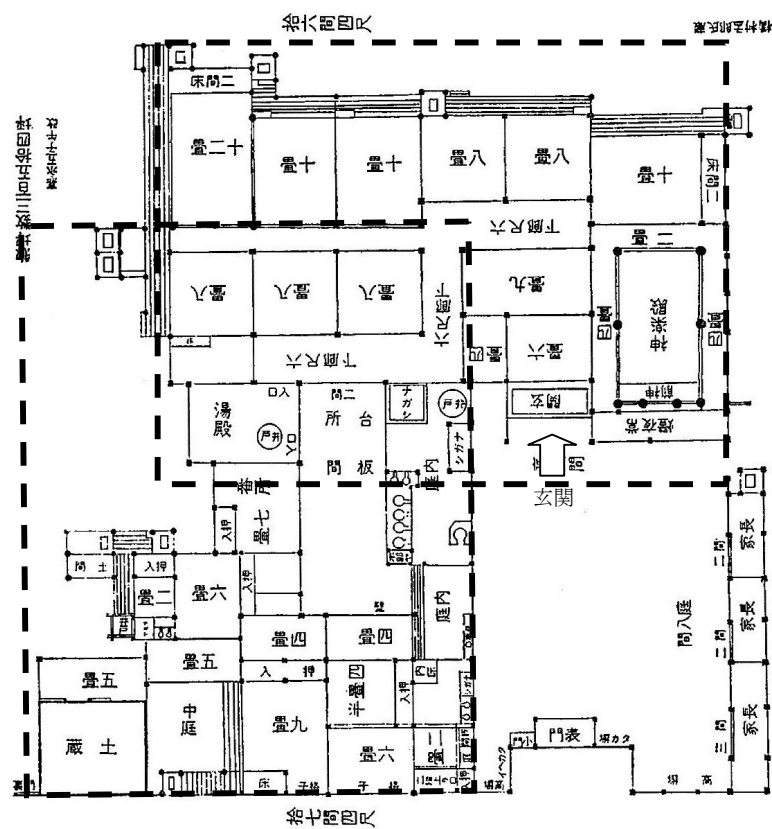
一方、橋村大夫邸は、「橋村孟郎氏蔵 嘉永5子午」の平面図(次頁)が残されている。しかし、橋村家は多くの本家・分家が常盤町周辺に屋敷を構えているので、この平面図の橋村邸が専売局に譲渡されたものと同じだったかは定かではない。

同「だったという過程で話を進めると、同邸の大きさは縦横、約30mの大きさで建坪は354坪とある。この平面図に、縦24m、横19m程度の独立した建物を当てはめてみた(図の点線 縦13.3間(24m)×横10.4間(19m)＝建坪138坪)が、いずれも独立した建物としては成立しない。

従って、専売所が買収した時は、橋村邸がこの平面図通りの建物であったなら、専売所が事務に便利ように、この一部を改築し、独立した一つの建物にしたのではないかと推測されるし、あるいは、この平面図とは全く異なった建物であったという可能性もある。

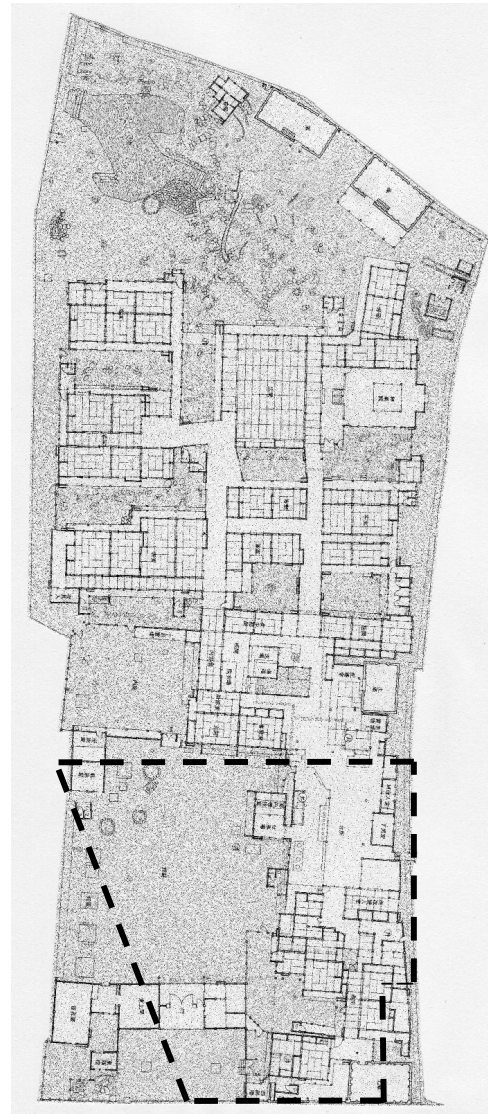
この平面図では、後述する「表門」の幅は1.5間程度で左に小門があったので、それを含めると2.7m程度でなかったか？

構造にあまりにも差異が大きいの、この平面図の建屋が神都図書館になったとは考え難い。



橋村大夫邸の大きさ

昭和5年作成の「宇治山田近傍」地図の橋村邸の敷地(点線枠)を最大の御師 三日市大夫次郎邸と比較してみる。その規模は1／3程度で格式高い御師の割りには、それほどの規模を誇つてはいなかったように思われる。



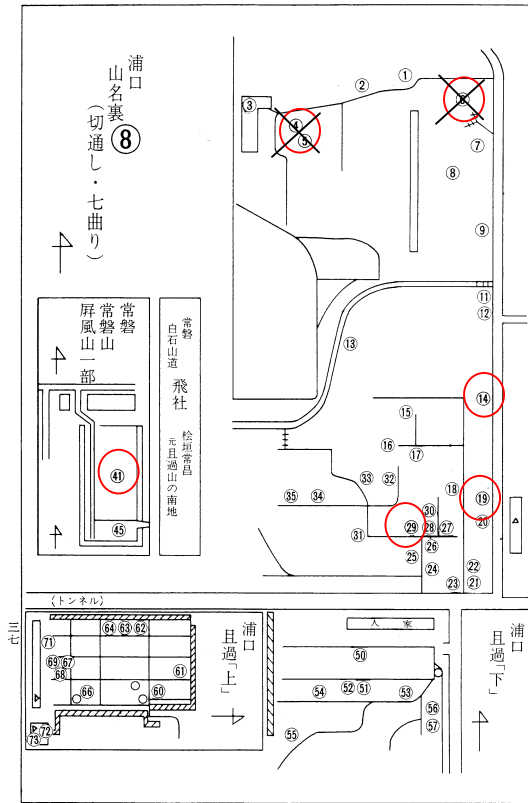
橋村家墓所

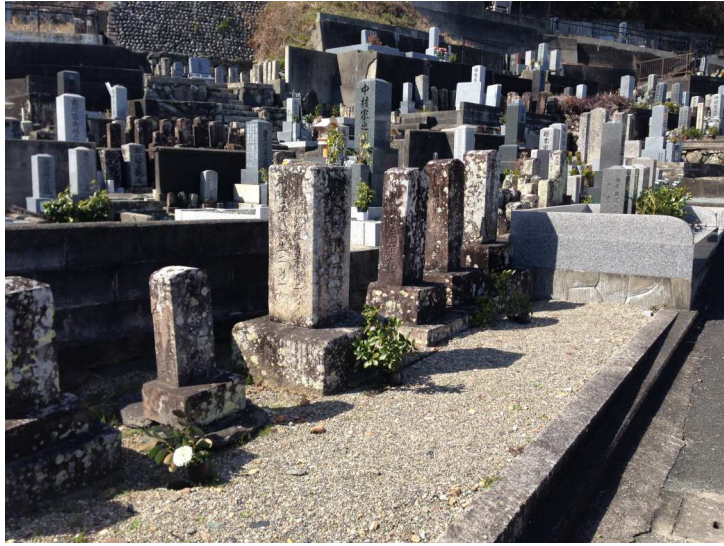
改訂伊勢度会人物誌付録「墓地配置図」から転載

⑧ 浦口山名裏墓地) ④ 橋村正翼(不明) ⑤ 橋村家(不明) ⑥ 同(不明) ⑭ 橋村正環・正基・正衛

⑲ 正代・正立・並子 ⑳ 橋村正主・正始

(常磐山・屏風山一部)(不明) ④① 正滋・寿昌院(正景妻)・正淳・正甫・正長・正因・正克・正河・正並・正令・正身





(上) 8・19墓



(上) 8・14墓 (正基・正衛・延世)



(下) 8・19正代墓



(下) 8・14正璟墓



(上) 8・29 墓

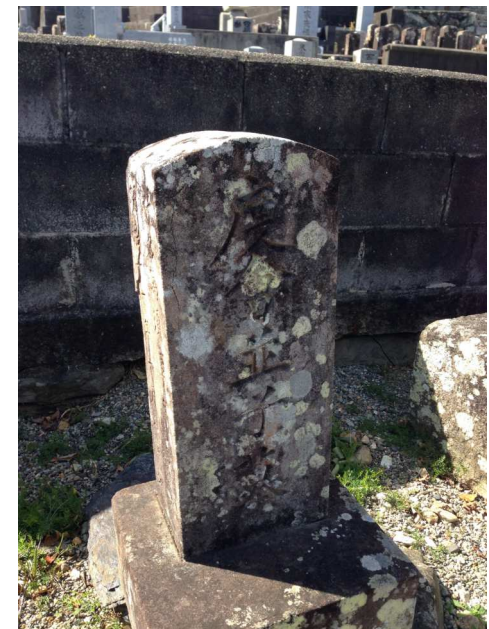


(下) 8・29 正主・正始墓

8・④他、記載なきは所在不明 9・④は新しい墓のみ



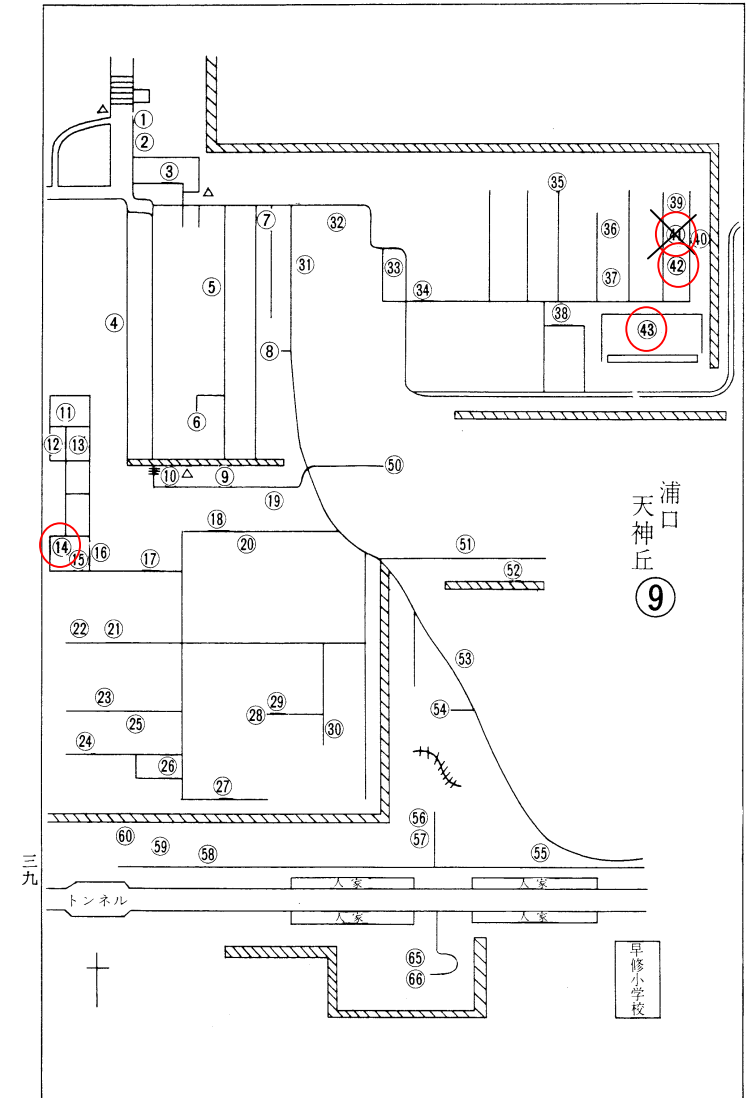
(上) 8・19 正立墓



(下) 8・19 並子墓



(上) 9・14墓 淳風の父 正風Ⅱ正兌の墓もある
(下) 9・14淳風墓



⑨浦口天神丘墓地 ⑭正兌・淳風 ④橋村家 ④橋村家(広田系) ④橋村恵正・正満・正兼・(正親)

9. ④③	9. ⑭	8. ④①	8. ②⑨	8. ①⑨	8. ①④	墓
恵正、 (正親)			正主、正始、	正代、正立、		主膳家系
		正滋、 正景妻寿昌院 正長、正甫、 正因、正克、 正河、正並				主膳宰記家系
		正令、正身			正環	主膳主計家系
	正兌、淳風	正淳Ⅱ正兌				主膳彈正家系
正満、正兼、						主膳右近家系
		(正甫)			正環、正基	帯刀大蔵家系

墓を家系で分類してみると下表のようになる。



(上) 9・④③墓 (恵正・正満・正兼)



(下) 9・④③正親・正修墓

橋村大夫名義の旅館

昭和43年版伊勢市史P. 615には明治初年に市内で名義を再興した旅館が記載されている。

橋村姓は次の通り。(祓名主)

橋村八大夫、橋村帯刀大夫(ちよ)、橋村三郎右衛門大夫、橋村織部大夫(正恒)、

橋村八郎大夫(正順)、橋村大夫(正順)、橋村主計(正貫)、橋村肥前大夫(正克)、橋村市大夫(淳風)

御師を廃止された同家が単数、複数の名義をもつて引き続き旅館業を始めたであろうことは想像に難くない。中には名義を御師とは所縁のない市井の旅館に祓名を売却した例も多いが、祓名主を同時に記載してみるといくつかは、橋村大夫家の本家あるいは分家で旅館を営んでいた可能性が見えてきて、「正順」も屋敷を専売局に売却する明治31年頃までは旅館を営んでいたかも知れない。逆に、これに関連性がない、正環、正尋、親正は別の道を歩んだとも言えなくはない。

明治4年時の橋村家

平成24版伊勢市史近代P. 198 表1 明治4年改正の職制と職員によると、

(職名)上主典(位階)相当従八位(人員数)各8(職務)掌助祀事修庶務、の中に、

(内宮)橋村淳風・橋村正克・橋村正環

(職名)上権主典(位階)相当正九位(人員数)各15、(職務)掌同主典、では、

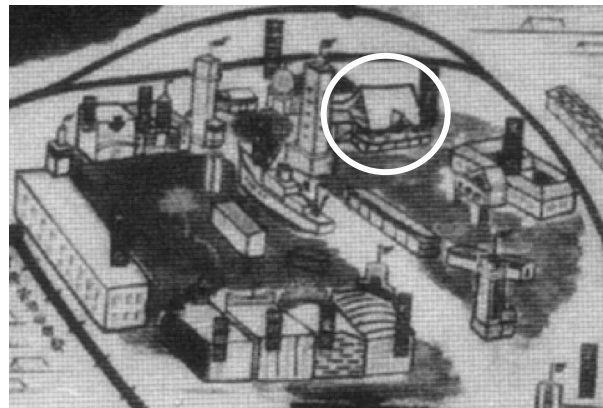
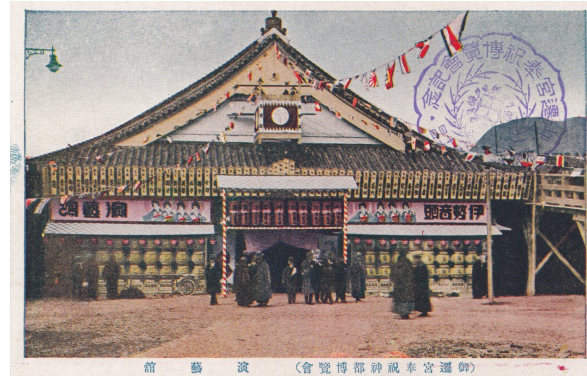
(外宮)橋村親正

を見出すことが出来るので、橋村家の数名は明治4年の神宮改革時に神宮職に復職している。

明治8年に橋村本家の「正克」が没したことにより本家を継承した「正順」は明治31年まで旅館業を営んでいた可能性はあるが、専売局に屋敷を売却してから神宮職に就いたという記録も見いだせていないので、行く末を知る手掛かりは現在のところない。

建屋と玄関と門

(上)昭和5年神都博覧会演芸館(中)昭和23年3月平和博覧会会場図(下)現在の昌久寺本堂と玄関



玄関は、「いにしえの伊勢」の山田修司氏によると、八日市場町にあった旅館「千秋楼」のものが移築されたという。お寺の方の話だと、移築に伴い、奥行きを減築したとも言われていたが、千秋楼玄関の写真と現在の玄関を比較すると形状は酷似しているので、奥行き減築の話は少し疑問を感じるが？

(上)千秋楼玄関(昭和中期の写真 戦災は免れた)(中)現昌久寺玄関(下)玄関のない千秋楼(上の写真より古いか?)



また、昌久寺の山門については、三重県環境生活部文化振興課のHP「三重の歴史・文化散策マップ」によると、「昌久寺の本堂と山門は、常磐町(旧上中之郷町)にあった御師・橋村大夫邸のもので、移築以前は神都公会堂(伊勢市観光文化会館の地に所在した)として利用されていました。市内に残る数少ない御師邸の遺構の一つです。」との説明がある。同課に典拠を伺った所、平成15年発行伊勢市立郷土資料館 第13回特別展図録からということであったので再確認してみた所、同文の記載があった。これまでの検討から、神都公会堂として利用されたという記載は明らかに間違いであろうけれど、山門に付いては、お寺の方の話では、昭和20年6月15日の空襲によって本堂は焼失したが、山門は焼け残り現在に至っているという。現在の昌久寺の山門が橋村大夫邸の表門を移築したものかどうか考察してみる。

時系列的にみた時、神都図書館となった橋村邸は昭和3年に宇治山田駅前に移築されているが、その時にその表門も移築されたと考えられる写真等は見い出せていないので、橋村邸が移築される時、あるいはその後、しかるべき時に除却されたか、あるいは、神都図書館が昌久寺に移築された昭和34年までの31年間、表門が専売局内に残され、神都図書館移築に時を合わせ、専売局内の表門が移築されたという可能性がない訳でもないけれど、専売局内のあったことを示す写真や文献等も今の所、発見されていないし、そう考えるも無理があるようにも思われる。

橋村邸の平面図から、表門の幅は1間半(前述)と推測したが、写真の門幅はそれに合致しているように思われるので、どちらの話が正しいのか判別できない。

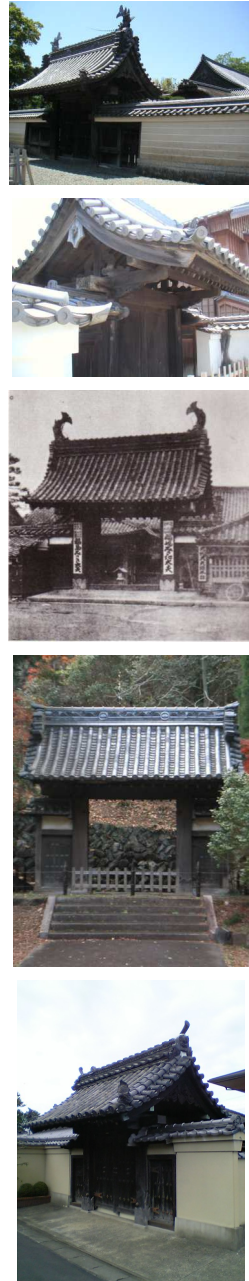
また、写真集などで橋村邸の門だと紹介されている上の写真は昌久寺の山門を撮影したものだろうと思われるので、橋村邸の表門という証拠にはならないだろう。

(上)橋村邸の門とされている写真 (下)昌久寺の山門



門構えの建築形式について、御師邸門徒寺門を比較してみた。

○御師邸門 三日市・龍・丸岡大夫邸のような長屋門があるが割愛する。(上から)太郎館大夫(現、祭主職舎)、山本大夫(少宮司邸)、福島御塩焼大夫(神宮文庫門)、葉山大夫(徴古館脇)、中西大夫(松葉邸)



○寺門 赤門正寿院(岩淵町)、瑞泉院(河崎町)、常照寺(宮町)、常明寺(一之木町)、養草寺(宮後町)



昌久寺の山門は鯨もあり全体的に少し過美な印象を受け、御師邸表門であつたようにも感じるが、必ずしもそうだったという確証も得られない。

鬼瓦や軒丸瓦に着目してみた。現在の本堂の鬼瓦を不鮮明ではあるけれど、神都博覧会時の演芸館絵葉書から鬼瓦を拡大したものと比較すると、形状は酷似しているように思う。従つて、現在の本堂の鬼瓦は橋村邸から移築されたものがそのまま保存されているように考えられる。「松葉」と「三」が描かれているが、そのキーワードと橋村大夫を結びつける資料は見つけられないが、現在の昌久寺の山門鬼瓦とは異なっているのは明らかである。山門鬼瓦には「桂」(写真真ん中)と書かれていて、山号の桂林山の「桂」を表しているのではないかと考える。また軒丸瓦は菊紋で本堂のそれとは異なる。また山門の裏屋根には同じ菊紋があるので、鬼瓦と山門木部が別個のものであるとは考え難い。御師邸表門遺構にはなかつたけれど、市内の寺の瓦には菊紋があらわれているものを多く発見できたが、等観寺の和尚さん談として、菊紋が勅願寺であつたという関係もなく、単なる装飾の二凶案ではないかという話だった。従つて結論的には、昌久寺山門は、お寺の方が言われるように、元々、昌久寺の山門であつたように考えるのが自然なように思うが、さらなる研究を期待したい。

(上から)昌久寺本堂、神都博覧会時の演芸館の鬼瓦、昌久寺山門の鬼瓦、扁額 山門の裏屋根



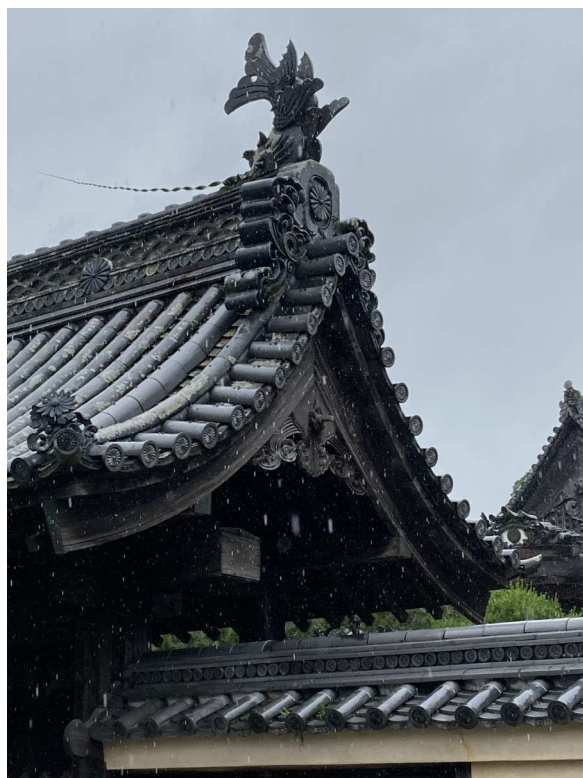
● 昌久寺の菊花紋は軒丸瓦と屋根裏に透かし模様がある、のが特徴である



● 光明寺(岩淵町) 特徴的に菊花紋が大きい 南朝後醍醐天皇の武将だった結城宗広の墓所があるからか？



● 太郎館大夫(祭主職舎 宇治) 棟、軒丸瓦、など大きく、多く見られる。皇族が務める祭主宿舎だから明治以後、葺き替えられたか、あるいは、伊勢神宮に貢献した慶光院だったから菊花紋が許されたか？御師表門としては特殊性があるように感じる。



(上) ● 寿巖院(尾上町) (下) ● 福島御塩焼大夫邸(現、神宮文庫門 徴古館前)
棟に小さな菊花紋が並べられている(小さな菊花紋の代表的な形式)



これらの調査を表にしてみると次のようになる。

御 師 門	寺 門	
太郎館大夫(祭主職舎)	昌久寺 光明寺 赤門心寺正寿院 中山寺 等観寺	大きめの菊花紋あり
福島大夫(神宮文庫)	寿巖院 常明寺 西方寺	小菊花紋あり
山本大夫(現少宮司職舎) 中西大夫(現松葉邸) 葉山大夫(現徴古館横)	世義寺 宝林寺 養草寺 寂照寺(三つ葉葵) 梅光寺(三つ葉葵)	菊花紋なし

これから考察すると、確定的な差はないように思えるが、昌久寺の山門は御師邸表門の形式よりは、市内の寺門に合致する点が多いように感じる。従つて、同山門は、橋村大夫邸の遺構とは考え難く、お寺の方がおつしやるように、戦前からあったものではないだろうか？

橋村邸の流転 まとめ

橋村家は度会異姓家の一家(地下権任家)として、外宮の権禰宜職を歴任した由緒ある家柄である。江戸期以前から御師 橋村大夫として活動していたが、1777安永6年には5万軒以上の檀家を有していたという大御師であり、その後も本家、分家共に繁栄し、その多くが外宮権禰宜職を務め、河崎世古周辺に住まいした。

系譜から、本家である主膳家の惣領であった「正立」の子「正克」が、橋村邸を建設した正景の妻、寿昌院の家系である分家「宰記」家に養嗣に入って「宰記家・肥前大夫(配札国が主に肥前の国(現在の佐賀県や長崎県)が中心であった)」を継承した。本家「主膳家・橋村八郎大夫」は次弟「正順」が継承した。しかし、「正克」が明治8年、44歳で早世して宰記家は絶家となったため、本家主膳家の「正順」がそれを引き請け、明治31年に橋村宰記邸を専売局に売却した。その時の「橋村宰記・肥前大夫」は「正順」だったと思われる。従って、これまで専売局の場所は橋村本家の土地であったと考えていたけれど、分家宰記家邸であった。

明治の時代になって同4年、神宮改革の一つとして御師が廃止されたことによつて、暫くは旅館を営んでいたかも知れないが、行く末を感じ、明治31年、屋敷を国(専売局)に売却した。橋村邸は事務に不便という理由で1棟の独立した事務所(縦13.3間×横10.4間||建坪138坪)として改築し、「山田葉煙草専売所」(のちの名古屋地方専売局宇治山田出張所)が開庁した。

時代が経過して昭和となり、宇治山田市は岩淵町(昭和6年建設の参宮急行宇治山田駅前)にあった大蔵省所管国有地(刑務所跡)5、529坪を昭和2年、立木とともに5万5千余円の特売で購入し、翌3年、専売局が新社屋を新築した時、旧事務所(旧橋村宰記大夫邸の一部)が、その頃、最古の御師邸であり、建築材料としても良好であるという理由で宇治山田市が買収して、翌4年の第58回神宮式年遷宮を記念して同地に移築された。合わせて、神宮司庁所有の神宮祭主舎構内にあった「神宮奉斎殿」が、その後、京都御所春興殿に建てられていた「神楽殿」も移築され、それらを接続する前面の道路も建設された。移築された専売局の旧事務所建屋は、交修図書館の蔵書を基礎として宇治山田市立神都図書館となり、奉斎殿は「神都公会堂」、神楽殿は「大礼記念館」となった。

さらに、翌5年には現、近鉄宇治山田駅構内を含む敷地を合わせ、「御遷宮奉祝神都博覧会」の会場施設となり、開催中はそれぞれが演芸館、迎賓館、御物館・歴史館として活用された。そして、博覧会終了後も、元の目的に戻して、神都図書館、神都公会堂、神都記念館(博物館)として活用された。

その後、下つて、昭和28年第59回式年遷宮にあたって神都図書館と神都公会堂は解体され、跡地に「伊勢会館」が竣工した。解体された図書館(旧橋村大夫邸の一部)は昭和34年「色町昌久寺に本堂として再建され、合わせてその頃、廃業したと思われる八日市場町の割烹旅館「千秋楼」の玄関部分が移築されたと推測している。また、山門は旧橋村大夫邸表門ではなく、戦災を免れた昌久寺の元からあった山門だと思われるが？

年表でみる橋村邸の流転

寛永20年1644 橋村邸新築(昭和初期では御師邸として最古の木造建築)

明治04年1872 御師廃止

明治22年 宇治と山田を合併して宇治山田町となる

明治29年 3月葉煙草専売法が公布 30年4月その官制を定められた

明治31年 1月旧御師橋村宰記(肥前大夫)の屋敷を買収。

事務に不便であったため改築を行い建坪138坪の事務所を建設して「山田葉煙草専売所」を開庁

明治39年 宇治山田市となる

大正03年 8日市場町旅館「與可楼」主人は中岡助三郎

大正10年 7月名古屋地方専売局宇治山田出張所と改称

大正11年 8日市場町旅館「與可楼」が「千秋楼」と改称 主人は西田 一雄

その後の経緯を考えると、昌久寺の玄関は「與可楼」のものであったとは思えない。

大正12年 8月 公会堂は神宮司庁所有で神宮祭主舎構内にあった総ヒノキ造りの神宮奉斎殿を倭姫宮御建創記念として市公会堂に改築する趣旨で譲与せられたもので、改装後の坪数は221坪余。(宇治山田市史付録P.6)

昭和02年 金融恐慌 同12月 (宇治山田駅前)の敷地は大蔵省所管国有地(旧刑務所跡)5、529坪を立木

とともに5万5千余円の特売で購入された。

昭和03年 1月専売局は同地に新社屋を新築し竣工。

その一部は建築材料として良ったため、宇治山田市が買収して(神都)図書館にすることにした。

同4月27日には交修図書館の蔵書を基礎に宇治山田市立神都図書館が竣工・創設

昭和05年 御遷宮奉祝神都博覧会開催 図書館は演芸館として活用された

昭和15年 2月11日〜5月31日 紀元2600年記念日本大博覧会開催 図書館の活用は不明

昭和16年 太平洋戦争開戦

昭和20年 6月昌久寺本堂焼失 図書館の建物は戦災を免れ、戦後も宇治山田市立図書館として運営

昭和21年 頃に神都図書館周辺に(明倫)商店街が形成され始めた

昭和22年 6月に明倫商店街協同組合として法人化され現在に至る

昭和23年 3月平和博覧会開催 会場図には(神都)図書館の建物がある

昭和24年5月神都図書館は宇治山田市立図書館に改称

昭和25年4月30日 図書館法が制定され、神都図書館は市立公民館として並存した

昭和28年第59回式年遷宮に当つて、神都公会堂と神都図書館は解体された。

9月跡地に「伊勢会館」竣工(建坪460坪 公会堂建坪221+図書館138=359坪+α

昭和29年3月3日図書館は伊勢市駅前の観光物産館の付属建物に移転した

同年3月31日(5月31日)第59回式年遷宮記念お伊勢博覧会開催

会場は倉田山と宇治山田駅前で伊勢会館は主会場(演芸館)となった

昭和30年1月宇治山田市が伊勢市に改称 宇治山田市立図書館が伊勢市立図書館に改称

昭和32年千秋楼 西田正秀の記述あり。この後、同楼は閉館、玄関が昌久寺に移築か？

昭和34年10月2020年12月31日に昌久寺でお寺の方に伺ったところ、神都図書館の建物は昌久寺本堂

(100畳)として昭和34年10月に再建されたという。(昭和28年解体から6年後はちよつと長いが？)

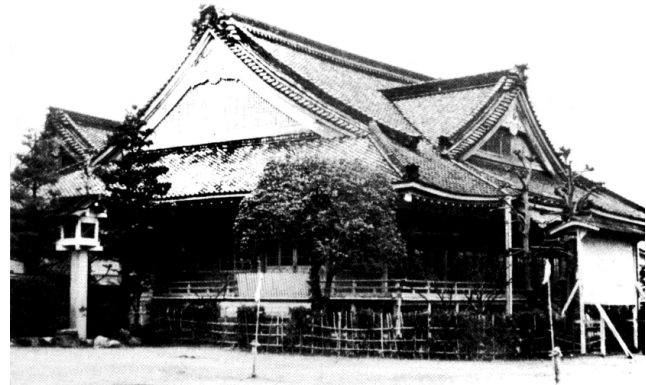
昭和38年3月伊勢参宮博覧会開催

昭和45年6月28日伊勢会館解体式

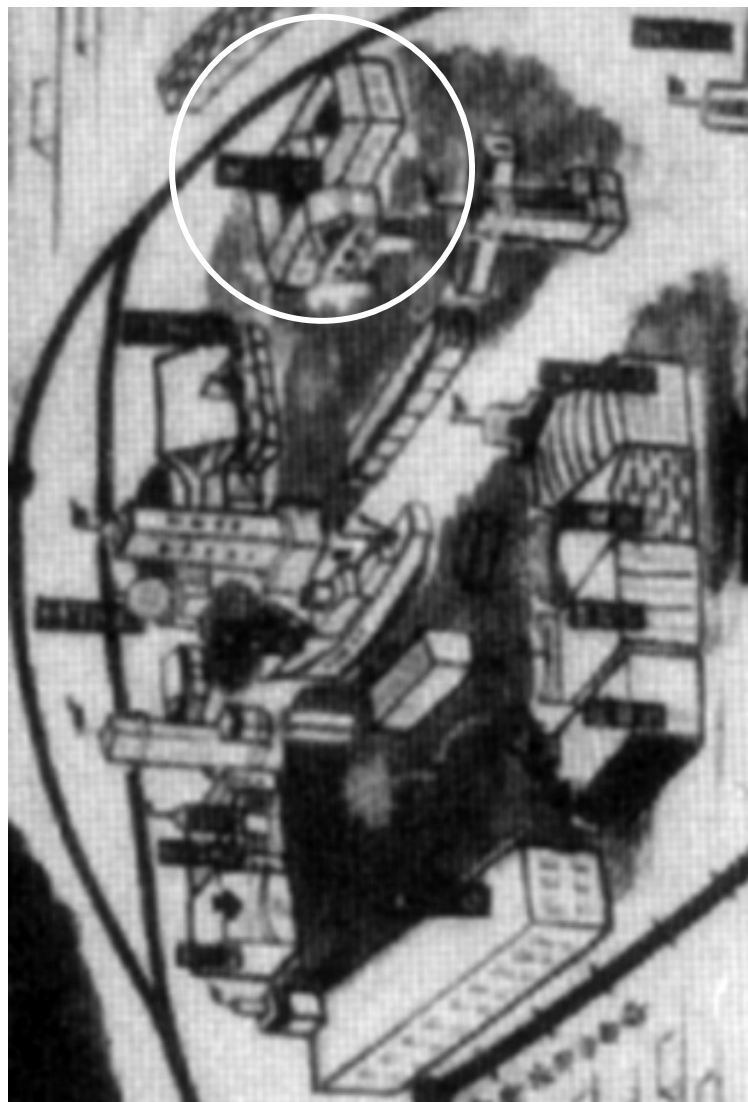
昭和46年7月31日現観光文化会館が新築竣工落成、8月25日開館 現在に至る

倭姫宮御建創記念「神都公会堂」

(上)神宮祭主舎構内の神宮奉斎殿 (中)神都博覧会の「迎賓館」 (下)昭和20年代の公会堂



昭和23年平和博覧会会場図では、公会堂位置に西洋的な建物が立っているが、詳細不明



大正12年8月 公会堂は神宮司庁所有で神宮祭主舎構内にあった総ヒノキ造りの神宮奉斎殿を倭姫宮御建

創記念として市公会堂に改築する趣旨で譲与せられたもので、改装後の坪数は221坪余である。

昭和3年4月8日に竣工し、5月1日「神都公会堂」として開館した。

「公会堂」とは公衆が演説会、講演会などの公益的な集会を行うに適した施設である。

昭和5年3～5月御遷宮奉祝神都博覧会の「迎賓館」として活用し、閉会後は再び「神都公会堂」に戻った。

昭和6年2月11日には「宇治山田市会議員総辞職勧告各派連合市民大会」が神都公会堂で開催された。

昭和11年9月1日宇治山田市は1906明治39年に市制が施行されて以来、30周年を迎え、神都公会堂にて市長および市会議員、市政功労物故者57名の慰霊祭が行われた。

昭和20年代までは神都公会堂としてあったが、昭和25年には市立中央公民館として利用されている。

昭和23年3月平和博覧会開催会場図では、公会堂位置に西洋的な建物が立っているため、伊勢会館建設前に建設された建物があつたのか、詳細不明。

昭和28年式年遷宮をむかえるにあたって解体、跡地に伊勢会館が10月31日建設された。

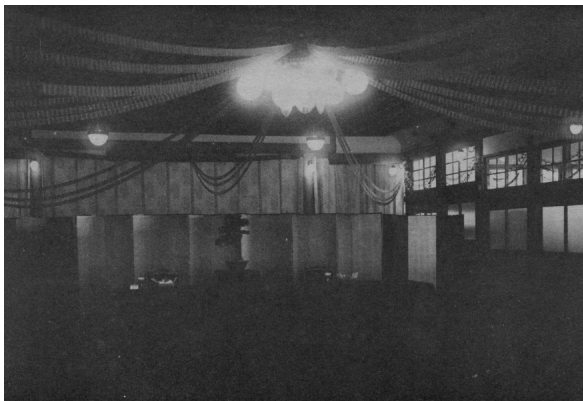
写真アルバム「伊勢・志摩の昭和」によると、神都公会堂の建物は南伊勢町神前浦にある金剛山地蔵院本堂として蘇っているとのことなので、2020年12月29日に訪問した。丁度、居合わせたご住職に伺ったところ、移築は昭和30年頃だということで、昭和28年に解体された後、しばらくして当地で再建されたように推測

できる。その後、屋根を吹き替えた時に正面の破風は撤去したが、その後、火災で本堂は焼失したと言っていたように思うが、現在の建物は昭和37年11月に再建されている。従つて、元の神都公会堂の遺構がどの程度、残っているのかは明確でない。



昭和06年宇治山田市役所発行の「御遷宮奉祝神都博覧会誌」によると、神都公会堂を迎賓館として使用したこと以外に記載はないので、賓客をもてなす施設として建物をそのまま利用したものと思われる。

(上) 高松宮殿下御成 (下) 公会堂内部 皇族殿下御休憩所



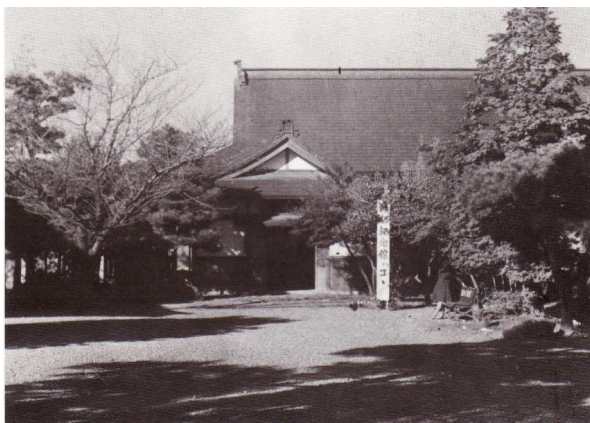
昭和天皇御即位御大礼記念 「神都記念館」

「御物館」は、「御遷宮奉祝神都博覧会誌」等によると、昭和3年に京都御所で行われた天皇即位御大礼（御大典）の時に儀式用として用いられた建物の一部であった春興殿神楽舎の「棟を本市に下賜され、昭和4年8月当地に到着した。公会堂敷地内に一時保管してから11月着工、12月に木造平屋建て銅板葺きの「御物館」が竣工した。梁間7.2m、桁行21.6m 建坪48坪＋玄関 3.0m×1.7m 建坪1.25坪 壁塗装は白漆喰仕上げである。」「歴史館」は、「御物館」と併設し渡り廊下で連絡する構造で新築された。「御物館」と同様に、木造平屋建て銅板葺きで、本館は14.4m×43.2m 建坪192坪＋玄関 6.3m×3.6m 建坪7坪×2、渡り廊下 2.7m×9.0m 建坪7.5坪。昭和4年12月着工、昭和5年1月31日竣工。昭和5年3～5月に「御遷宮奉祝神都博覧会」が開催された時は、「御物館」は、「大礼記念館」として、宮内省より貸し出された御大礼御物や賞勲局より貸し出された勲章や記章を展示し、「歴史館」は、建国3千年の史実を、油絵を背景に、活人形を配置して、電気証明を施してパノラマを18景を展示した。その展示は、上田萬年、森田神宮皇學館館長の監修によるものとされ、図案構想は久保田金僊、油絵は茂木習古、電気照明は遠藤静雄が担った。

博覧会終了後、そのまま宇治山田市が受け継いで御物館と歴史館を合わせて「神都博物館」と改称して管理し、昭和の御大礼を記念する身近な文化施設・教育施設とし、一般参宮客の観覧のためにも活用された。

その後、「神都博物館」は、昭和18年3月末に閉鎖され、市立青年学校として使用された。

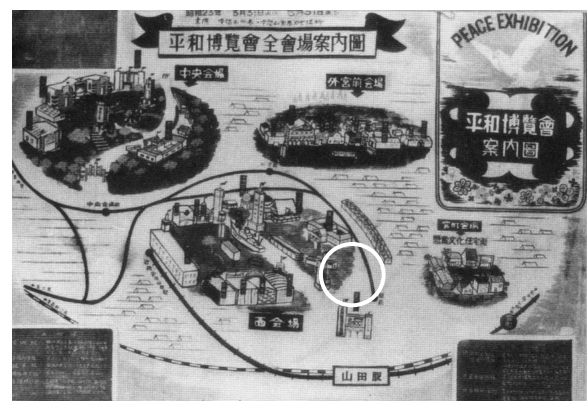
（上）右端が神都記念館（中・下）宇治山田市神都記念館（歴史館）全景



昭和23年3月開催の平和博覧会の会場図には神都記念館は書かれていない（図書館はこれまで通りの形状に描かれているけれど、公会堂は西洋的な建物に変化しているが、その資料はない。）ようだが？同29年3月31

日く5月31日「第59回式年遷宮記念お伊勢博覧会」開催の宇治山田駅前会場写真では伊勢会館の右横に神都記念館の屋根が見えるので、この頃まではあったのではないか。昭和45年6月28日伊勢会館解体まで神都記念館の建物は存在していたかもしれないが、詳細は不明。

(上)昭和29年お伊勢博覧会伊勢会館(中)昭和23年平和博覧会会場図(下)昭和5年神都博覧会会場図



(付録)遷宮記念館・名物館・名勝館

神都博覧会の附属施設として神都図書館に隣接して、南側に「遷宮記念館」、公会堂と図書館の間の西側に「名物館」、公会堂の西側に「名勝館」があった。

遷宮記念館(上写真)

(1)内宮御用材、五十鈴川奉曳の状況、(2)御白石奉曳車進行の場面、
(3)内宮の正遷宮渡御の状況、などが第一室で、第二室では神宮御史蹟が
展示された。

名物館

3区あり、1区では(1)からくり的、(2)宮川茶屋、など、2区では、
(4)お杉お玉、3区では(7)清火屋、(9)お休み茶屋などの展示があった。
名勝館

段返し式キネオラマ装置で、(1)宮川橋西詰から上流の桜花の包を眺め遠く高倉山を望む場面などを展開した。



あとがき

「いにしへの伊勢」の山田修司さんからいただいた1枚の絵葉書から多少の疑問を感じ、調査していたらこれまで気にはなっていたけれど調査していなかった「御師 橋村大夫」に関心を持つことができ、少し深く知り得たことは新型コロナウイルスが流行している自粛ムードの中、沈滞した自分の気持ちを少しは明るくしてくれたように感じる。コロナもまた良し、かな？ でも、極力、早く収まって、と願わざるを得ない。

コロナ自粛が続く2021年令和3年8月 秋 田 耕 司

謝辞

貴重な資料を種々、ご提供、また、ご指導いただきました「いにしへの伊勢」山田修司様、神宮司庁 音羽様に深く感謝致します。

年 表

寛永20年1644（江戸時代初期）橋村邸新築（昭和初期では御師邸として最古の木造建築）

明治01年1868 明治維新 山田奉行・宇治と山田三方会合廃止 奉行所に度会府設置

明治02年第55回式年遷宮 明治天皇神宮に初参拝

明治04年神宮制度大改革 御師廃止 廃藩置県

明治05年明治天皇行幸（2回目）

明治22年第56回式年遷宮 宇治と山田を合併して宇治山田町となる

明治27年日清戦争

明治29年3月葉煙草専売法が公布 30年4月その官制を定められた

明治30年参宮鉄道 宮川山田間開通

明治31年1月常磐町字河崎世古の旧御師橋村宰記（肥前大夫）の屋敷と建坪138坪の建物を買収して

「山田葉煙草専売所」を開庁

明治36年宮川電気株 市電本町（山田）二見間開通

明治37年日露戦争

明治39年宇治山田市となる

明治42年第57回式年遷宮 外宮前岡本町に山田郵便局新築

大正03年第1次世界大戦に参加 八日市場町 旅館「與可楼」中岡助三郎の記載あり

大正04年大正天皇神宮「親拝

大正09年第1次世界大戦の戦後恐慌襲来

大正11年八日市場町 旅館「與可楼」が「千秋楼」と改称 西田「雄」の記載あり

大正12年関東大震災とそれによる震災恐慌

8月 公会堂は神宮司庁所有で神宮祭主舎構内にあつた総ヒノキ造りの神宮奉斎殿を倭姫宮御建創記念として市公会堂に改築する趣旨で譲与せられたもので、改装後の坪数は221坪余。

昭和02年昭和金融恐慌「米国発端」昭和6

12月（宇治山田駅前）敷地は大蔵省所管国有地（刑務所跡）5、529坪を立木とともに5万5千余円の特売で購入された。

昭和03年1月常盤町に名古屋地方専売局宇治山田出張所が新築され竣工。（宇治山田市史 付録P.2）旧橋村大夫邸は宇治山田市が買収して（神都）図書館にすることにした。、その建坪は138坪である。同4月8日 岩淵町に「神都公会堂」、4月27日 「神都図書館」の建物が竣工し、5月1日「神都公会堂」として、また、交修図書館の蔵書を基礎に宇治山田市立神都図書館が開館した。

同年11月 大正天皇崩御後の諒闇のあけ、昭和天皇御即位の御大礼（即位式）が京都で挙行され、引き続き新天皇が神宮を親謁された。11月19日天皇来着、20日外宮、21日内宮御親拝
同月 「市街中央部展望」写真の神都公会堂前の道路は、岡本町より公会堂前を経て吹上町に達する直道の拡張並びに新設で竣工した。（宇治山田市史 付録P.8）
同じ頃、昭和天皇即位御大礼の時に京都御所春興殿に建てられた神楽殿が宮内庁から下賜され、移築して「大礼記念館」とした。

昭和04年 第58回神宮式年遷宮

昭和05年3～5月御遷宮奉祝神都博覧会開催。神都公会堂は「迎賓館」、神都図書館は「演芸館」、大礼記念館は御物館とそれに付随して「歴史館」が建設され、活用された。開催終了後は、再び、「神都公会堂」、「神都図書館」、「神都記念館」として運営された。

昭和6年宇治山田駅新築 2月11日 「宇治山田市会議員総辞職勧告各派連合市民大会」が神都公会堂で開催された。

昭和11年9月1日 宇治山田市は1906明治39年に市制が施行されて以来、30周年を迎え、「神都公会堂」にて市長および市会議員、市政功労物故者57名の慰霊祭が行われた。

昭和15年2月11日～5月31日 紀元2600年記念日本大博覧会開催

昭和16年太平洋戦争開戦

昭和18年3月 神都記念館はに市立青年学校として使用するため閉鎖した。
昭和20年6月昌久寺本堂焼失 終戦

図書館の建物は戦災を免れ戦後も宇治山田市立図書館として運営
昭和21年頃に神都公会堂周辺に商店街が形成されはじめた

昭和21年以後(昭和25年)神都公会堂は市立中央公民館、神都図書館は市立図書館として利用された。

昭和22年6月 明倫商店街協同組合として法人化され現在に至る

昭和23年3月31日～5月31日 平和博覧会開催 会場図には神都図書館の記載あるが神都記念館はない

昭和24年5月神都図書館は宇治山田市立図書館に改称

昭和25年4月30日 図書館法が制定され、神都図書館は市立公民館として並存した

昭和28年9月 第59回式年遷宮にあたって神都公会堂と神都図書館は解体、跡地に「伊勢会館」竣工建
坪460坪(神都公会堂建坪221+神都図書館138+359坪)

同年10月31日 伊勢会館開館：市名改称前に伊勢と名乗るだろうか？

昭和29年3月3日図書館は伊勢市駅前の観光物産館の付属建物に移転した

同年3月31日～5月31日 「第59回式年遷宮記念お伊勢博覧会」開催 会場は倉田山と宇治山田

駅前。伊勢会館は主会場(演芸館)となった。

昭和30年1月 宇治山田市が伊勢市に改称 宇治山田市立図書館が伊勢市立図書館に改称

昭和33年3月19日～5月7日 伊勢参宮博覧会開催 倉田山中心

昭和34年10月 神都図書館の建物は 一色町昌久寺に本堂として再建された

同時期頃に神都公会堂の建物も南伊勢町金剛山地蔵院本堂として再建された

昭和28年 「伊勢会館」建設前に解体されているので、6年間程度、保管されていたことになるが？

昭和37年11月焼失した地蔵院の本堂が再建された

昭和45年6月28日 伊勢会館解体式

写真では伊勢会館の右横に「神都記念館」の建物が見えるので伊勢会館解体まで存在していたか？

昭和46年7月31日 伊勢市観光文化会館新築竣工・落成、8月25日開館、現在に至る

名古屋地方専売局宇治山田出張所の推移(宇治山田市史 P.367より)

明治29年3月、葉煙草専売法が公布 同30年4月、その官制を定められた

明治31年1月、当市常磐町字河崎世古に山田葉煙草専売所を開庁し、伊勢国の大部、伊賀・志摩両国にお
ける葉煙草の検査・収納・売渡等を管掌する事となった。これが当所の始めである。

明治32年5月、山田専売支局と改称。

明治35年11月官制改正により名古屋地方専売局山田出張所と改称。

明治37年4月、煙草専売法が公布せられ、煙草の製造は政府の専属となるに至り、同年6月、名古屋葉煙草
収納所と改称し、所管区域を津市・安濃・一志・飯南・志摩・南北牟婁公口の一市八郡とした。

明治38年2月、四日市煙草製造製造所山田分工場を設置し、刻キザミ煙草の製造を開始した。

明治39年11月、名古屋煙草製造製造所山田分工場と改称。同年12月名古屋煙草収納所山田出張所と
改称し、名古屋煙草製造所山田分工場を併置せられた。

明治40年10月、専売局名古屋収納所山田出張所及び専売局名古屋製造所山田分工場と改称。同時に専
売局名古屋収納所神社出張所が新設せられ、塩専売事務を取り扱う事となった。

明治42年4月、専売局名古屋製造所山田支所と改称。所管区域を宇治山田市・度会・志摩・南北牟婁の一
市四郡とした。

明治44年4月山田専売官吏派出所となり、所管区域を宇治山田市・飯南・多気・度会・志摩・南北牟婁の一
市七郡となし、神社出張所は廃止せられた。

大正2年6月名古屋専売支局山田出張所と改称し、煙草・塩・樟脳の事務を取り扱う事となった。

大正2年11月名古屋専売支局宇治山田出張所と改称。

大正10年7月名古屋地方専売局宇治山田出張所と改称される。これが現時(昭和4年)の名称である。

参考文献

昭和04年 宇治山田市史(昭和47年復刻版 三宅書店) 宇治山田市役所

昭和06年 御遷宮奉祝神都博覧会誌 宇治山田市役所

昭和09年 伊勢度会人物誌 度会郷友会(昭和50年改訂版 川端義夫)

昭和43年 伊勢市史 伊勢市役所

平成24年 伊勢市史 伊勢市

平成26年 御師邸平面図集 秋田耕司

平成30年 宇仁館物語 秋田耕司

考訂度会系図 拾貳 四門 橋村氏

筆者紹介

昭和23年伊勢市大世古町に生まれ、昭和47年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業後、日本ビクター株式会社勤務し、レコード、ビデオディスク、DVD、記録ディスクなどの開発に携わり、退職後、技術コンサルタント会社を起業、現在に至る。実家の掛軸を受け継いだことから、その調査を経て、伊勢の近代史を研究するに至った。著書、伊勢度会近世名軸図鑑、伊勢参宮近世名所図会、御師大研究などの自主製作本は三重県図書館や伊勢図書館に収蔵されている。これら研究結果は、ホームページでも公開している。
ホームページ <http://nfc.no.coccan.jp/index.htm>

御師 橋村大夫邸の流転

発行 2021年8月吉日

著者 兼 発行者 秋田 耕司

〒255-0120 神奈川県平塚市真田3-10-18

メールアドレス: koji.akita@nifty.com

印刷・製本 有限会社 N F C 技研

御師 橋村大夫邸の流転

もくじ

まえがき	1
市街中央部展望「絵葉書	2
昭和5年3月御遷宮奉祝神都博覧会開催	5
神都図書館	7
橋村宰記は誰？	9
考訂 度会系図 拾弍 四門 橋村氏	11
古地図から	19
位階について	21
神都図書館に再利用された建物	23
橋村大夫邸の平面図	25
橋村大夫邸の大きさ	27

橋村家墓所	28
橋村大夫名義の旅館	37
明治4年時の橋村家	38
建屋と玄関と門	39
橋村邸の流転 まとめ	49
年表でみる橋村邸の流転	51
倭姫宮御建創記念 神都公会堂」	54
昭和天皇御即位御大礼記念 神都記念館」	59
(付録)遷宮記念館・名物館・名勝館	62
あとがき・謝辞	63
年表	64

御 御 御 御 御
師 師 師 師 師
橋 橋 橋 橋 橋
村 村 村 村 村
大 大 大 大 大
夫 夫 夫 夫 夫
邸 邸 邸 邸 邸
の の の の の
流 流 流 流 流
転 転 転 転 転